

平成 29 年度 第 1 回 児童福祉専門分科会 議事要旨

- 1 日 時 平成 29 年 5 月 17 日 (水) 午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分
- 2 場 所 城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階 第 1・2 研修室
- 3 出 席 者 (委 員) 津富委員 (会長)、荒木委員、池ヶ谷委員、今村委員、
太田嶋委員、大橋委員、垣見委員、木村委員、寺尾委員、
徳浪委員、長澤委員、永田委員、錦織委員、長谷川委員、
服部委員、平岡委員、宮下委員、望月委員
(欠 席) 浅井委員
(事務局) 石野子ども未来局長、深澤子ども未来局次長、
山田参与兼子ども未来課長、松永参与兼青少年育成課長
豊田子ども若者相談担当課長、安本参与兼幼保支援課長、
青野参与兼こども園課長、橋本子ども家庭課長、
荒田参与兼児童相談所長、吉永障害者福祉課長、
秋山参与兼教育総務課長、
鈴木特別支援教育支援センター担当課長、他事務担当者
- 4 傍 聴 者 0 人
- 5 議 題 (1) 会長の職を代理する者の指名について
(2) 保育所等の設置認可等に係る意見聴取について
- 6 報 告 (1) 待機児童 (保育所等・放課後児童クラブ) の状況について
(2) しずおかエンジェルプロジェクト・ひきこもり対策について
(3) 保育士確保対策事業について
(4) 市立こども園の取り組みについて
(5) 産後ケア・ママケアデイサービス事業について
(6) 第 1 期障がい児福祉計画の策定について

7 会議内容

■議題 (1) 会長の職を代理する者の指名について

○津富会長【代理指名】

平岡委員を代理する者として指名したいですが、よろしいでしょうか。

○委員

異議なし。

■議題（２）保育所等の設置認可等に係る意見聴取について

○太田嶋委員（質問）

資料１－２の「量の見込み」と「確保方策」をエリアごと見ていくと、１、２歳児はほぼ満たされ、０歳児のみ不足している印象を受ける。これから小規模保育所を実施する、城北、西南、有度は１、２歳児が不足していない印象を受けるが、「確保の方策」は、これらの区域の待機児童数と突き合わせをしているのか。

⇒子ども未来課

計画においては、０歳児の不足を解消するために、施設整備を行っている。既存施設の場合、０歳児のみの定員拡大という方法もあるが、新設の場合は、０歳、１歳、２歳でセットで整備する必要があるため、１歳、２歳児が供給過剰になっている区域もある。実際の申し込み状況では、計画を超える申し込みがあり、ニーズに応えられていない区域もあるが、市全体で見れば、概ね計画の範囲内におさまっている。

○太田嶋委員（質問）

０歳児が不足しているが、家庭的保育事業の整備状況はどうか。家庭的保育事業で０歳児を受け入れてくれれば、新たに保育所をつくる必要性も減ると思う。

⇒子ども未来課

計画のなかで、整備の目安として、家庭的保育事業の施設数は位置づけていないが、不足している範囲内においては、施設種別を問わず、要件を満たすものは認可をしていく。家庭的保育事業は、いわゆる保育ママが１人で３名、又は補助者を入れ５名の保育を行うので、一定規模のある施設に比べて閉鎖的な環境になりがちであり、事故のリスクもあるため、本市では、一定程度の規模を有する小規模保育事業の整備を優先してきた。今後、申請があれば、必要に応じて、家庭的保育事業の認可も行っていく。

○太田嶋委員（意見）

ひとこほに比べると、小規模保育事業に参入したい事業者が伸び悩んでいる印象を受けるので、家庭的保育事業等も伸びていくような体制づくりに力を入れることも考えられると思う。

○垣見委員（質問）

各区の待機児童園に0歳児はゼロということであるが、0歳児は受けないのか。

⇒子ども未来課

各区の待機児童園は、小規模保育事業として、0歳児の受け入れは行っていない。小規模保育事業の受け皿とは別に、育児休業から復帰する際の緊急的な支援策として、一時預かり事業として0歳児の受け入れを、この枠とは別に行っている。

○木村委員（質問）

子どもの危険を管理するにあたり、認定の基準は厳しいものがあると思う。例えば、高松みのりナーサリーのように、海岸線に近いと、地震の際の津波、海や川の近くにあったり、土砂崩れ等の可能性がある場所に園を開設する場合、津波避難訓練をしたり、高台に逃げたりするなど、リスク管理として、参考にできるものがあったら教えてもらいたい。

⇒子ども未来課

施設の新設にあたっては、津波の浸水被害や土砂災害等の指定地域でないか等、開設の相談時に事業者と確認を行い、運営に支障がないか確認している。高松みのり周辺は、本市の作成している津波非難マップの想定浸水地域には含まれていないが、災害時に備え、各施設で作成する防災マニュアルや毎月の避難訓練等で意識の向上に努めていると認識している。

○長谷川委員（質問）

あおぞらキンダーガーデンの図面を見ると、0歳児と3歳児の部屋のそれぞれが別々に分かれているが、これはどういう意図なのか教えて欲しい。また、園庭もユニークな形をしているので、避難時にお子さん達がどこに集まるのか心配である。

⇒子ども未来課

3歳未満児の保育室が複数あることについては、藤枝スズキ学園から、特に3歳未満児については小規模なグループを編成して保育をすることが望ましいと考えており、それぞれ小グループに分けて保育を行いたいと提案があった。また、避難時の園庭の活用については、図面左側に駐車場があり、広い土地があるので、こちらを活用できると考えている。今回の御意見を踏まえ、この点については、事業者にも伝えておく。

○津富会長（質問）

0歳児のところと1～2歳児のところは区切るのか。

⇒子ども未来課

区切ることを予定している。

○津富会長（質問）

それぞれ、右左と上下があり、上下それぞれが2つに分かれるということでしょうか。

⇒子ども未来課

そのとおり。

○津富会長（質問）

先ほどの太田嶋委員の質問に関連するが、事業者からの提案に、0歳児と1～2歳児の定員の比率がおおよそ1：2となるものや、0歳児が少なめのものが多いと思うが、市の方から提案を変えたらどうかという提案をするのは難しいか。

⇒子ども未来課

小規模保育事業等については、新設を行う場合、0歳、1～2歳で完全に統一した数字で行うように要請をしている。90名定員の新設の場合は、1：2の割合より0歳児が少ない割合となっているが、持ち上がりや、年度の途中で兄弟での受け入れに対応ができるよう、市の方からこのような割合になるように要請をしている。今回の御意見を踏まえ、今後、定員の構成については、0歳児についても考慮し、事業者と協議していきたい。

- 報 告
- （1）待機児童（保育所等・放課後児童クラブ）の状況について
 - （2）しずおかエンジェルプロジェクト・ひきこもり対策について
 - （3）保育士確保対策事業について
 - （4）市立こども園の取り組みについて
 - （5）産後ケア・ママケアデイサービス事業について
 - （6）第1期障がい児福祉計画の策定について

○宮下委員（質問）

資料5の2つ目、全園に学校評議員を配置とあるが、市立のこども園の取組として行うものか。

⇒こども園課

そのとおり。市立の全園に配置する。

○宮下委員（質問）

静岡市の市立のこども園のみの配置か。

⇒こども園課

そのとおり。小学校にも学校評議員があると思うが、それと同様に配置していく。

○宮下委員（質問）

いままではどのように取り組んでいたのか。

⇒こども園課

市立のこども園は、旧幼稚園と旧保育園から移行しているものであり、旧幼稚園においては学校評議員が設置されていた。

○宮下委員（質問）

私立の幼稚園でも、学校関係者評価委員会というものを設置して、年3～4回、協議を行い、開催日やその内容を各園のホームページで公開している。今回、市立のこども園でもこのような取り組みをされるのは良いと思うが、ホームページで公表を予定しているか。

⇒こども園課

学校評議員からいただいた御意見とそれに対する取組については、ホームページ等で公開する予定である。

○宮下委員（意見）

公教育において、第三者の目で見るとは大事なことなので、そうしていただけるとありがたい。

○木村委員（質問）

資料2-1にある40人の待機児童について、追跡調査をした方が良いと思うが、やっているのか。また、子どもを見る負担が女性に多くかかってしまっており、男性がもっと育児に参加すべきだと思う。男性の育児参加を促していく施策をやってみたら良いと思う。

⇒子ども未来課

保育所等の利用調整・入園決定等については、利用者の方に寄り添った支援が求められており、平成27年度から地域子ども・子育て支援事業に位置付けられた利用者支援事業において、できる限り、利用者の方の家庭環境や利用系統に合った施設の御案内に努めている。空きが出れば、利用調整や事情等の変化を踏まえ、入園の調整をしているところである。今後、できる限りきめ細やかな支援をしていきたい。

⇒子ども未来課

男性の育児参加については、市民局が中心となり、各局連携して様々な事業を進める取組を開始したところ。また、子育てトークというものを各地域で開催している。地域の民生委員・児童委員さん等が中心となり、各こども園や集会所で実施しているが、その中で、子育てパパトークというものがある。男性にも参加していただいて、育児に関する悩みの共有や子育てする仲間づくりの場として実施している。

○錦織委員（質問）

資料3-1で、若年層に不妊等の話をするというものがあつたが、実際に妊婦さんや赤ちゃんに触れあうことも大事だと思う。子どもは大きくなるにつれ、赤ちゃんに触れあう機会が少なくなる。実際に赤ちゃんとかかわり、保育士さんになりたい、大きくなったら結婚して子どもが欲しいという気持ちが生まれることもあると思うので、思春期の子が年に1回でも妊婦さんや赤ちゃんに触れ合える事業があると良いと思う。

一時期、男性の保育士さんが女の子にいたずらをしたという事件があつたとき、男の保育士さんに女の子のお世話をして欲しくないという声があつた時期があつたが、静岡ではそ

うという意見があったか。個人的には、男の子は、戦いごっこをするので、ダイナミックな遊びができたり、女の子にもそういった遊びが好きな子もいたりするので、男性の保育士さんが増えてくれることは良いと思っている。一生懸命頑張っている男性保育士が男性であることを理由に嫌な思いをすると可哀想なので、静岡市でも同じような苦情があったのかお聞きしたい。

⇒子ども未来課

赤ちゃんとの触れ合いについては、市内 11 箇所の児童館で、児童館の事業として、中学生・高校生と乳幼児の親子が関わる事業を行っている。この事業は、中学校では、家庭科の授業の中で実施しており、思春期のお子さんにとっては、命の大切さ等を学ぶこともできる機会となっている。ただ、児童館の事業なので、なかなか市内に広がらないのが検討課題である。

⇒こども園課

市立こども園においても、毎年、数名の男性保育士が採用されている。御質問いただいた男性保育士に関する苦情については、今のところ、特に聞いていない。保育教諭もかつては、保育士さん、保母さんと呼ばれ、お母さんの立場が強かったが、男性保育教諭も増え、お父さんの役割も果たしているものと思っている。

○荒木委員（意見）

5歳までの待機児童が減っていることはとても良い動きだと思う。放課後児童クラブの待機児童が315人いるということだが、待機の解消に向け、今後、どのような具体策を取っていく予定か。

⇒子ども未来課

放課後児童クラブについては、各学校の敷地又は学校の中に設置することを基本方針としている。整備したところは待機児童が解消されていくが、順番に整備を進めていくので、その学校が整備の時期を迎えるまでは、待機児童が発生する。また、課題として長期休みの対策が必要であるほか、放課後子ども対策として、教育委員会で放課後子ども教室を実施している。こちらについては、地域の方に協力を得て、いろんな社会体験ができるものであり、家庭の事情に関係なく、希望する児童が下校時刻まで学校で過ごすことができる。

○池ヶ谷委員（意見）

資料3-1、結婚支援事業のうち、若年層に対する情報発信、ライフデザインセミナーの実施、結婚出産等について。女性に対して、自分の人生設計のなかで、赤ちゃんを産む時期等を計画しておいた方が良いということを情報発信するものだと思うが、女性だけでなく、男の子にも、女性に出産適齢期があることを教えた方が良いと思う。また、家庭で両親に頼れない場合、男性の働き方にも関わって来るぐらい、子育てには多くの時間とお金がかかることも情報発信していくことが必要だと思う。

⇒青少年育成課

ライフデザインセミナーは、駿河総合高校で男性・女性が一緒にいる場で、いろんな話をさせていただいた。高校生にとって、将来の夢とは職業になってしまうが、その中に、自分の家庭、例えば、何歳で結婚するか、自分が何歳のときに子どもは何歳か、また、そのとき、どのくらいのお金がかかるかを表に落とし込んでもらった。また、赤ちゃんとのふれあいに関する事業として、保健師さん、保育士さんに赤ちゃんの成長の話や、男女ともに歳をとって子どもを育てることの大変さ、どのくらい体力を使うのかを話してもらった。実施後にアンケート調査をしたところ、結婚を身近に感じた、自分も子どもが欲しいと思うようになったという意見もあったことから、今後も続けていきたいと思う。